

農林中央金庫の 価値創造プロセス

当金庫が目指す事業運営の方向性、そして「どのように価値を生み出す組織であるか」等について、理事長メッセージや価値創造プロセス等のコンテンツを通じて紹介します。

理事長メッセージ	13
CFOメッセージ	19
価値創造プロセス	23
① 私たちの歩み	24
② 経営資本	25
③ 私たちの事業領域	26
④ 中期ビジョン	28
⑤ ステークホルダーへの価値提供	30
⑥ パーパス実現のための重要課題 (マテリアリティ)	31

Q 価値創造の起点となる農林中央金庫の強みは何ですか。

- A** 100年の歴史のなかで系統組織とともに培ってきた多様な経営資本こそが強みです。系統組織とのリレーションや食農バリューチェーン(生産から加工・流通・外食・輸出・消費まで)全体にアクセスできるネットワークを活用することで、出融資などの金融対応にとどまらない当金庫ならではのソリューションを提供しています。
- さらに、会員のみなさまを通じた安定的な調達基盤が、収益源の分散化をはじめとする中長期目線での運用を可能にし、農林水産業へ腰を据えた支援を行うための原動力となっています。

Q その強みを活かした価値創造に向けて、農林中央金庫が目指す方向性を教えてください。

- A** 当金庫は、自らのパーパス(存在意義)を実現していくために、中期ビジョンとして2030年のありたい姿を定め、外部環境の変化に柔軟かつ機動的に対応しながら、その実現に向けた経営を進めています。
- 足元では、「稼ぐ力の再構築」、「農林水産業の持続的な発展への貢献」、そしてこれらの着実な取組実践を通じた「ステークホルダーのみなさまからの信頼回復」に注力しながら、2030年のありたい姿の実現を目指しています。